

全日本ロボット相撲大会 2026

開催要項

1. 趣旨

高等学校生徒並びに高等専門学校、専門学校、大学等の学生、一般社会人に、ロボット作りを通じて技術の基礎・基本を確実に習得させるとともに、技術研究の目標と実際に問題解決する体験の機会を与え、もって生徒・学生等の学習意欲の向上と自発的、創造的な学習態度の育成に資する。併せて、海外に通用する人材の育成、新技術への関心と夢を育み、ロボット技術の向上を目指す。

2. 大会運営の概要

(1) 主催

富士ソフト株式会社

(2) 後援（申請予定）

文部科学省、公益社団法人全国工業高等学校長協会

(3) 参加者

大会は、性別・年齢・職業・国籍など個々の特性に関わらず、未就学児から学生・中学生・大学生・高等専門学校生・専修学校生・社会人および一般の方まで、どなたでも参加できる。

(4) ロボットの種類とクラス

ロボット力士は自立型とラジコン型の2種とし、500gと3kgのクラスがあり、それぞれ予選・決勝を行う。

(5) 予選会と決勝大会

予選会にて決勝大会に出場するロボットを選出する。また、主催者が公認する大会の上位入賞者に決勝大会への出場権を与える。

3. ロボット規格および試合方法の概要

以下に示すほか、詳細については別紙「試合規則」による。

(1) ロボット力士の規格

- ①ロボット力士の外形は、500g クラスは幅 10cm、奥行き 10cm、3kg クラスは幅 20cm、奥行き 20cm、高さ自由の四角形枠内に収まるものとする（形状は自由）。
- ②ロボット力士の体重は、500g クラスは 500g 以内、3kg クラスは 3kg 以内とする（附属部品を含む）。
- ③ロボット力士の種類は、自立型・ラジコン型の2種とする。

自立型とは、審判の合図で取組を開始する際、審判がリモコンでロボットのスタートを指示した後、ロボット自身が人手を介さず行動を開始するものである。

ラジコン型とは、参加者が無線制御機を用いてロボットを遠隔操作するものである。

- ④自立型の制御方法は自由とする。ただし、スタート及びストップについては、事務局が指定する制御に合わせて動作するものとする。
- ⑤ラジコン型での使用電波は、2.4GHz、27MHz（01～12）のナローバンドまたは40MHz（61／63／65／67／69／71／73／75バンド）の陸上用とする。
- ⑥ロボット力士には、制作者が6文字以内の「しこ名」をつける。

（2）試合の定義と土俵規格

- ①試合は、試合者（ロボット操作員は1台のロボットにつき1名とし、3kgクラスでは別途1名の補助員をつけることができる）双方が試合規則に従って、定められた土俵内において、試合者が独自に製作したロボットを用いて相手を土俵外に押し出したものを勝ちとする。また、土俵内で有効決まり手（別紙試合規則による）を競い、審判員の判定により勝敗を決めるものである。
- ②試合は3分間3本勝負とする。
- ③試合方式は、自立型、ラジコン型ともトーナメント方式による。
- ④土俵は、500gクラスは高さ2.5cm、直径77cmの木製（メラミン塗装もしくはメラミン化粧板）の円形とする。3kgクラスは高さ5cm、直径154cmのアルミ製板の上に黒色の鋼板（厚さ1.6mm）を32本のボルトで止めた円形とする。
- ⑤土俵内には仕切り線を設ける。土俵内外の区画線は、500gクラスは2.5cm、3kgクラスは幅5cm、の白色線（白色線は土俵内）とする。

4. 予選会

- （1）開催日 ※都合により変更することがある。
2026年12月19日(土)
- （2）会場 ※都合により変更することがある。
国技館（東京・両国） 東京都墨田区横網1-3-28
- （3）参加者
大会への参加申込者。誰でも参加可能
- （4）決勝大会の出場権
「全日本ロボット相撲大会 2026 決勝大会」への参加ロボット力士を選出する。
選出台数は別途定める。
- （5）申込要領、申込先
 - ①申込は、インターネットにて行う。全日本ロボット相撲大会公式サイトに用意された登録フォームより必要事項を入力し、以下期間中に申し込む(厳守)。

申し込み期間：2026年7月1日から7月31日まで

全日本ロボット相撲大会公式サイト：<https://www.fsi.co.jp/sumo/>

②参加費は無料とする。

③申込はロボット1台につき1回。

5. 決勝大会

(1) 開催日

2026年12月19日(土)、20日(日)

(2) 会場

国技館（東京・両国）

東京都墨田区横網1-3-28

(3) 参加者

予選会通過者及び主催者が公認する国内大会上位入賞者。

500gクラス／3kgクラス、自立型／ラジコン型のそれぞれでトーナメント方式により決勝戦を行う。

(4) 表彰

賞状：文部科学大臣杯（予定）、文部科学大臣文部科学大臣賞（予定）

富士ソフト株式会社賞

副賞：富士ソフト株式会社賞

以上